

# Racing Topics

## ★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

### ●オークスはアーモンドアイが勝利し牝馬二冠を達成

5月20日(日)に行われた優駿牝馬(オークス/GⅠ)ではアーモンドアイ(牝3歳/美浦・国枝栄厩舎)が優勝しました。桜花賞優勝と合わせての牝馬クラシック二冠達成は史上14頭目のこと。また鞍上のクリストフ・ルメール騎手(栗東・フリー)はソウルスターリングで制した昨年に続くオークス連覇で、これは史上6人目のこととなります。

### ●C.ルメール騎手がJRA通算800勝を達成

5月19日(土)の3回京都9日・第5レースではウインルチルが1着となり、同馬に騎乗したクリストフ・ルメール騎手は、史上49人目、現役では24人目となるJRA通算800勝(4390戦目)を達成しました。外国人騎手としては今年3月4日(日)に達成したミルコ・デムーロ騎手(4541戦目)に次ぐ史上2人目のJRA通算800勝となります。

### ●今野貞一調教師がJRA通算100勝を達成

5月19日(土)の3回京都9日・第2レースではクロンヌデトワールが1着となり、同馬を管理する今野貞一調教師(栗東)は、現役146人目となるJRA通算100勝(延べ1294頭目)を達成しました。

### ●シンボリクリスエス産駒がJRA通算1000勝を達成

5月19日(土)の2回東京9日・第10レースとして行われた是政特別ではサトノティターンが1着となり、シンボリクリスエス産駒のJRA通算勝利数が1000勝となりました。これは種牡馬としては史上19頭目の記録となります。

### ●ティエムオペラオーが死亡

5月17日(木)、ティエムオペラオー(牡22歳)が繋養先である北海道新冠郡の白馬牧場にて心臓麻痺のため死亡しました。同馬は1999年皐月賞、2000年天皇賞春秋制覇など史上最多タイとなるJRA・GⅠ7勝をマーク、当時の世界最高額となる賞金18億3518万9000円を獲得し、JRA通算26戦14勝の成績を残して引退。2004年には顕彰馬に選出され、種牡馬としては京都ハイジャンプ(J・GⅡ)、東京ハイジャンプ(J・GⅡ)を制したティエムトップバズレなどを出しています。なおティエムオペラオーを追悼して、6月10日(日)までの競馬開催日には東京・中山・京都・阪神・小倉の各競馬場に献花台・記帳台を設置、他競馬場およびウインズでは記帳を受け付けています。

## ★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

### ●東京プリンセス賞はグラヴィオーラ【各地の主要3歳重賞】

東京プリンセス賞(5月10日、大井、1800<sup>円</sup>、牝馬)は、3番手から4コーナーで先頭に立った2番人気のグラヴィオーラ(父サウスヴィグラス)が後続を引き離して圧勝。JRAから大井への移籍を挟み、デビュー以来無傷の3連勝中で単勝1.2倍という圧倒的支持を集めたプロミストリープは、距離延長が応えたか、7馬身も離れた2着に敗れました。新設重賞のぎふ清流C(5月10日、笠松、1600<sup>円</sup>)は、4～5番手から差を詰めた4番人気のウォーターループ(牝、父ウォーターリーグ)がゴール寸前で差し切り、東海クイーンCに続く重賞2連勝。のじぎく賞(5月17日、園田、1700<sup>円</sup>、牝馬)は、序盤逃げ、1コーナー手前で一旦2番手に控えた10番人気の伏兵トゥリパ(父カルストンライトオ)が3コーナー過ぎに先頭を奪い返し、2歳時の兵庫若駒賞以来の重賞勝ちを果たしています。

### ●グレイスフルリープらが出走、5月30日のさきたま杯(浦和)

さきたま杯(JpnⅡ、5月30日、浦和、1400<sup>円</sup>)は、グレイスフルリープが中心、以下サクセスエナジー、ネロ、ベストウオーリア、キタサンミカヅキ(船橋)の順に有力視されます。

## ★海外競馬ニュース 文・秋山響★

### ●米G1ブリークネスS～ジャスティファイが米三冠に王手

米三冠の2戦目に当たるG1ブリークネスS(ダ9.5<sup>分</sup>)が5月19日にメリーランド州のピムリコ競馬場で開催されました。競馬場には霧が立ちこめ、馬場も水が浮く不良とあいにくのコンディションとなりましたが、道中、内のグッドマジック(昨年の米最優秀2歳牡馬で、G1ケンタッキーダービー2着)と並んで先頭を進んだG1ケンタッキーダービーの勝ち馬ジャスティファイ(牡3歳、父スキャットダディ)が直線で抜け出すと、最後はG2リズンスターSの勝ち馬ブラヴァーゾの追撃を半馬身振り切って優勝。2015年のアメリカンファラオ以来、史上13頭目となる米三冠制覇に王手をかけました。ジャスティファイはこれで今年2月のデビューから5連勝。G1はサンタアニタダービー、ケンタッキーダービーに続く3連勝での3勝目です。鞍上のM.スミス騎手は1993年のブレイリーバイユー以来となるこのレース2勝目、管理するB.パファート調教師はアメリカンファラオ以来の7勝目となり、19世紀のR.ウォルデン調教師が持つ同レースの最多勝記録に並びました。また、パファート調教師はこれで米三冠レース14勝目となり、これもD.ルーカス調教師の記録に並びました。